

(4) 学習評価の工夫

「育てたい力」一覧表は、キャリア発達の視点に基づくニーズを捉えるツールです。評価の在り方については、ARA・SHIの教育プログラム概要図に示しているように、ニーズの把握、個別の指導計画、学習指導案、学習評価、具体的改善方策、引き継ぎというPDCAサイクルに基づくシステムに位置付けています。

各学習グループにおいて、評価の観点やそのためのツール等、児童生徒の実態や指導形態に応じて評価方法を工夫している。平成28年度にまとめた学習評価は以下のとおりです。今後、教育課程の編成ごとに評価方法の工夫・改善を図ります。

	対象とした授業	評価者	評価で用いたツール	評価の時期・頻度	評価の観点	評価の進め方
小学部一般学級	・生活単元学習「なかよしオリンピック」 ・「宿泊学習」 ・「地域の先生」 ・「修学旅行」 ・「発表会」 ・「卒業・進級単元」 ・生活 ・音楽 ・図画工作 ・体育	・指導者 14人	・指導案 ・学習指導計画様式 ・Sスタイル ・評価シート	・単元の期間によって、評価日を設定する(中間、最終) ・指導案は授業後に直接記入する ・評価シートを拡大印刷し、児童下校後チェックする	【指導の評価】 ・単元時数、時期 ・目標の妥当性 ・学習内容 ・教材等 【子どもの評価】 4観点評価 ・関心、意欲、態度 ・思考力、判断力表現力 ・技能 ・知識理解	①指導案への直接書き込み ②単元終了後の評価シート(数値化、グラフ化) ①個別目標とリンクした評価シートに記入し、数値によるグラフ化と記述で表す ②単元後振り返り学習や発表会などで個人内評価、他者評価をする ③評価の一部は通知表に添付する
中学部一般学級	・生活単元学習「運動会」 ・「私たちを取り巻く社会」 ・「宿泊学習」 ・「ありがとう会」 ・社会 ・理科 ・音楽 ・保健体育	・指導者 16人 ・外部講師 1人 (県立教育センター指導主事)	・指導案 ・Cスタイル ・評価シート ・評価分析シート ・学習ファイル	・指導案は毎回、授業後すぐに回覧を開始する ・評価シートは授業ごとに記入する ・評価分析シートは、単元終了後に行う ・学習ファイルを用いた個人内評価は、学級ごとに行う	・単元期間及び時期 ・個別目標設定の妥当性 ・指導案の共通理解 ・キャリア教育の意識 ・授業づくり計画及び準備・活動の進め方 ・教材・教具や場の設定 ・生徒の学びや変化	①授業ごとの評価シートを活用し、生徒の自己評価に対し、設定した目標に対しどの程度できたかを記述する ②授業後に指導案を回覧し、気付きや改善点を記入する ③単元ごとに評価の観点に沿ってアンケート集約する ④個人内評価を行う
高等部一般学級	・各教科等を合わせた指導「作業学習」(作業基礎・校内実習)	・指導者 21人 ・外部講師 1名(就労移行支援事業所職員)	・指導案 ・校内実習日誌 ・作業基礎評価シート ・道具の使い方チェック表 ・作業種別基準表 ・出来高表	・作業基礎評価シートと校内実習日誌は記入欄に授業ごとに記入する ・作業基礎はセッション終了日に個人内評価を行う ・道具の使い方チェック表は授業ごとにチェックする ・作業種別基準表と出来高表は作業時に記入し作業評価シートで振り返る	・単元期間及び時期 ・個別目標設定の妥当性 ・指導案の共通理解 ・キャリア教育の意識 ・授業づくり計画及び準備 ・活動の進め方 ・教材・教具や場の設定 ・生徒の学びや変化 ・指導運営全般	①作業基礎評価シートと校内実習日誌は記入欄に授業ごとに記入する ②作業基礎はセッション終了日に個人内評価を行う ③作業基礎の授業の進め方、日数、評価シート内容など職員アンケートを取り、その後担当者で検討会を行い改善点は改善していく
小・中・高重複障がい学級	・自立活動および教科別の指導(個別の学習)	・指導者 14人(自己評価) ・外部講師(スーパーティーチャー)	・指導案 ・日々の記録	・日々の記録は、授業ごとに行う ・スーパーティーチャー研修は、年に2~4回程度 ・小グループによるミーティングは、年に1回程度	・目標設定、指導方法、教材の妥当性	①授業後、指導者は記録をとる ②研修、ミーティングの際に作成した指導案の自己評価を行う ③研修、ミーティング内で、学部内の教員、外部講師が評価・助言を行う
	・音楽、生活単元学習、自立活動など、学部全体で行う一斉授業	・メインティーチャー及びサブティーチャー	・指導案 ・反省アンケート	・毎回の授業後(指導案回覧) ・単元終了後(反省アンケート実施)	・単元期間、時期、目標、学習(指導)内容などの妥当性 ・児童生徒の学びや変化	①授業後、指導案を回覧し、気付きや改善点を記入する ②反省アンケートを実施する